

## 60の手習い

de JA1RIZ

泣かず(変調かからず、キーの音出ず)、飛ばず(電波を発射せず)のQRT状態ですが「手習い」のことをチョット。

老後に精進することを今までは「50の手習い」といつてきましたが、昨今は『60の手習い』といっても良い様です。定年は50才から55才そして60才、現在は65才が標準となり、70才に伸びようとしている時代となってきました。

団塊の世代が定年を迎え、技術の伝達が十分行われないまま若い世代に交代して、品質が維持できずあわてふためいている業界もあると聞く。そして、いったん退職した会社から請われて再就職したというひとかなりいる様だ。今迄は、退職後3年間は、関連会社・同業他社への就職まかりならん…等の誓約のうえ退社が普通であったが、昨今の情勢はそんなことは言っていない。

このため、定年世代も安穩としていられない。今までの経験の延長に満足しては、物足りないことになるのではないか。技術を磨き、知識を吸収して自己研鑽をしておかなければならない時代になった、といえる。では「そんなあんたはどうなんだい？」と尋ねられたら…ハイ少しは勉強しなければいけないと思っています、くらの答えをするのが精一杯である。それならば、私はトライするには不足のない強電の資格、電験1種をめざしてみたい。

17才の頃夢に見た電験3種の資格を55のときスベリ込みで。また、その上の2種にチャレンジして60才でなんとか峠をこえることができた。自分には取れないのではないかと、思っていたハードルをなんとか越えることができた。しかし、…雲の上の資格・1種となると受かるには、この先何年かかるかまったく不明…で想像がつかない。この歳にしてトライするには…「まっしぐらに精進する」ことの難しさ、愚かさが交錯する。

しかし、無精・安楽の虫が住みついている自分にはこれを受けつづけることが大いに必要かと思っている。脳ミソも体もほどほどの刺激と運動は、老いの進行をセーブする良薬とは、幾多の実績と研究の成果が教えているところです。最近、短文の朗読、1~2桁の数字の加算をすること、などで脳ミソが全般的にカクハンされて脳の働きが良くなるとの研究結果が発表されている。一部では学校でも実施されよい成果が出ているそうです。

〇〇体操、××運動が良いと聞けばやってみる等、良さそうなことは出来る限りどんどん実践してみなければならぬ歳に私達はきている…。

達人である「先生」は云っている。

- ・ 勉強を途中で止めなければ必ず受かります。
- ・ 電験は、受け始めたら受かるまでやらないと、ホント、後悔しますよ。
- ・ どれだけ時間をかけるかということが大事。早く受かるコツはたくさん勉強することです。
- ・ 頭で覚えるより、図を書いて手に覚えさせる。
- ・ 「法規」は書いても読んでも覚えませんが、書いて覚えるしかありません。
- ・ 「法規」は、『数値』の意味を考えながら覚えると良い。
- ・ 試験の前の数ヶ月間は、長期戦の考えではダメです。短期決戦で踏ん張ってください。
- ・ 厄介な計算をおっくうがらずに計算することが合格するコツ。
- ・ 問題は、過去問を狭く深く研究する事が大事です。
- ・ 電験に受かってみれば意外と簡単なものです。

ならば、気力があれば60才からでもまだ出来るかも知れない。遅くはないのだ！

今回は70の手習いとして報告できれば幸いに思います。老込むには早い。読者各位も「電験」を自分の言葉に読み替えて、頑張りたいと思うのは欲張りであろうか。(以上)